

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部

発行：会長 田中勇次郎

第21回東京都作業療法学会を振り返って

第21回東京都作業療法学会 学会長 中里 武史

2025年7月13日（日）第21回東京都作業療法学会を東京都立大学 荒川キャンパスにて開催させていただきました。まずは、920名とこれまでの学会でも最大となる多くの皆さまにご参加、ご来場いただいたこと厚く御礼申し上げます。今回の学会の開催にあたりご支援いただきました出展企業や当事者の皆さま、当日お手伝いいただきました学生の皆さま、会場を使用させていただきました都立大学の関係者の皆さま、1年間業務に忙しい中で実行委員としてご尽力いただいた皆さま、東京都作業療法士会各部署の皆さま、本当に多くの方のご協力を得て、無事に開催することができました。心より感謝申し上げます。

学会長という大役を務めるにあたっては、実行委員がこういう学会にしたい、こんなことができればいいという想いが叶えられるよう、今を支える作業療法士が皆で創る学会にしたいという想いで取り組んでまいりました。その結果、出展や企画がどんどんと増え、作業療法士だけでなく、一般の方も気軽に参加できるような学会を目指すこととなり、とても大変な労力を要する学会となっていきました。

作業療法士のことを広く知ってもらい、作業療法の輪を広げる、さまざまな連携を強化することを掲げておりましたが、学会当日は一般の方々や子どもたち、当事者の方も交えながらさまざまな場面で交流があり、参加していただいた皆さまと共に創り上げられ彩られていく姿はとても「作業療法らしい」

学会になっているように感じられました。できる限りを詰め込んだ分、その準備は容易ではありませんでしたが、やりがいや達成感は格別でした。もちろん配慮が完璧になることはなく、至らない点もあったかと思います。ご参加いただいた方々のご意見、反省点や経験を積み重ねながら今後の発展に向けて来年以降の学会に引き継いでいけたらという想いでおります。

最後になりますが、今回Now or Neverをテーマとして「今できること」を考えながら学会を開催しました。関わっていただいた皆さまにとって今回得たことや経験したことが未来の活躍に活かしていただける機会となっておりましたら学会長としてはこれ以上ない幸せです。



かつてはOT担当者ご利用者の関係だったチームLEOの皆さんとの写真です。こうして関係性が変わっても一緒に学会で企画ができたことを大変嬉しく思います。

CONTENTS

- ◆第21回東京都作業療法学会を振り返って…①
- ◆第21回東京都作業療法学会 開催報告…②
- ◆教育部からのお知らせ…④
- ◆東京都作業療法学会に参加して…④
- ◆子ども委員会活動報告…⑤
- ◆東京都作業療法学会での公募企画の振り返り…⑤
- ◆認知症のひとと家族の生活支援委員会 活動報告…⑥
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.52…⑥
- ◆東京都と東京都JRATとの災害リハ支援協定の締結…⑦
- ◆第21回東京都作業療法学会公募企画（災害対策）のご

- 報告…⑦
- ◆シンポジウム「自動車運転再開に向けた多機関連携」のご報告…⑧
- ◆就労選択支援について…⑧
- ◆福祉用具部研修会のご案内…⑨
- ◆「第9回こどものための福祉機器展」参加報告…⑨
- ◆ブロック活動報告…⑩
- ◆スポーツ支援委員会活動紹介…⑫
- ◆編集後記…⑫

第21回東京都作業療法学会 開催報告

— Now or Never — 今、できること —

東京女子医科大学附属足立医療センター 今井 光

2025年7月13日（日）に開催された第21回東京都作業療法学会は、無事盛況のうちに幕を閉じました。これもひとえに、本学会にご参加くださった皆様、快くご講演いただいた安保雅博先生、濱口豊太先生、下出尚弘先生、奥津光佳先生、大海龍一先生、遠藤真史先生、学会を盛り上げてくださった各企画関係者様、企業様のお力添えあつてのことです。深く御礼申し上げます。

当日はとても暑い中、会場である東京都立大学荒川キャンパスに老若男女、立場も経験年数も異なる参加者が集い、総勢900名をも超えました。特にこれまでの学会に比べ、子ども連れや学生の参加者が目立ち、今年度の学会のテーマであった「Now or Never—今、できること—」がまさに体现された未来へと繋がる学会となったと感じています。

本学会は中里武史 学会長、大瀧直人 委員長を中心に、1年以上にわたる準備期間を経て開催されました。振り返ると長くもあり短くも感じた濃密な期間でした。前回学会の閉会式では、中里学会長より第21回学会に向けた想いが語られ、PR動画の放映やポスターの配布を通じての広報活動を行い、学会を作り上げる取り組みが開始されました。

運営スタッフとは「これまでにない規模にしたい。」「作業療法士だけでなく、様々な方と語り合いたい。」「子ども連れの方や若い方にも参加しやすく、作業療法に触れられる学会にしたい。」といったコンセプトを共有し、より多くの方に作業療法の魅力を分かち合えるような学会を作り上げれることを目指していきました。

当日は朝8時45分の開会式から夕方まで、全9会場を活用した多彩なプログラムが進行しました。学会長講演では中里学会長がテーマに込めた想いを語り、続く特別講演では安保雅博先生が「この15年間にわたる作業療法とのかかわり—反復性経頭蓋磁気刺激とボツリヌス療法を中心に—」と題して、臨床の最前線と作業療法士に向けた提言、そして未来への展望を共有してくださいました。教育講演も身体領域、小児領域、地域支援、精神科領域と幅広く用意され、参加者の関心に応じて学べる内容が揃いました。学生や若手の参加者が積極的に質問し、終了後も講師や先輩に話しかけている姿を見ると、学びの火種がしっかりと次世代に受け継がれていることを実感します。



各団体が主催する企画も、作業療法士だけでなく家族連れや中高生、養成校の学生、他職種なども参加の門戸を広げてくださったことで、これまでにないほど、活発で多様な視点や考え方を楽しんで頂ける内容になっておりました。学会主催企画としても、「作業療法体験」や「クイズラリー」など、小さなお子さんや一般の方も興味を持って楽しんでいただける企画をご用意しました。惜しむらくは、こちらが想定した以上の企画参加者が集まり、やむなくお断りすることになってしまった点は心残りでした。



会場内では一般演題発表も活発に行われ、演題ごとに熱心な質疑応答が交わされました。若手の発表者も多く、フロアからの質問に真剣に答える姿や、発表後に聴講者と議論を続ける様子は非常に頼もしく感じられました。発表者同士が互いの研究や実践を参考にし、新たな連携やアイデアが生まれる場面も多く見受けられました。

もちろん、運営面では多くの挑戦がありました。全会場でのタイムキープ、トラブルへの対応、会場案内のわかりやすさ確保など、当日までのシミュレーションや係員同士の連携が試される場面もありました。それでも、当日運営スタッフ一人ひとりが臨機応変に動き、「今できる最善」を尽くす姿勢を貫けたことも、大会テーマそのものを体現する経験でした。

参加者からは「開かれた雰囲気の学会でとても良かった。」「ベテランだけでなく、若い人や小さい人の声がする学会は初めてだった。」「作業療法の可能性を改めて感じた。」といった温かい声を多数いただきました。その言葉は、私たち運営スタッフにとって何よりの励みになりました。

今回、900名を超える参加という数字はもちろん嬉しい成果ですが、それ以上に、参加者ひとりひとりが「何かを持ち帰った」と実感できる場を作れたことが最大の喜びです。企画・準備・会場運営・広報に関わった全員の尽力、そして講師や参加者の皆さまのご協力があってこそ成し得たことです。

学会の準備は長く地道な作業の連続でした。ですが、今、集まったスタッフだからこそできることを一生懸命に取り組んだひとつひとつのことが「Now or Never-今、できること-」の実践であり、未来へとつないでいく経験であったと自負しています。

本学会の運営に際しましては、至らぬ点多々あったかと存じますが、温かく見守っていただき誠にありがとうございました。今後とも東京都作業療法学会へのご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

教育部からのお知らせ

老年期領域：基礎ポイント研修開催のお知らせ

「介護予防に求められる視点～支援とエンパワメントの2つの柱～」

開催日時：2025年11月23日（日） 9：30～12：40予定

開催場所：専門学校 社会医学技術学院（対面研修）

参加費：会員2,000円、非会員4,000円

申し込み：QRコードより読み込み、もしくは都士会ホームページ参照

※詳しくは、東京都作業療法士ホームページ「研修案内」をご参照ください。



発達障害領域：基礎ポイント研修

「読み書きの困難さをかかえる子どもへの支援～他職種からの知見を作業療法に活かす～」

開催日時：2025年9月28日（日） 9：00～15：30（8：30～入室開始）予定

開催方法：Zoom使用でのオンライン研修

参加費：会員4,000円、非会員8,000円

申し込み：QRコードより読み込み、もしくは都士会ホームページ参照

※詳しくは、東京都作業療法士ホームページ「研修案内」をご参照ください。



2025年度現職者選択研修：身体領域

※本研修は2024年度以前に日本作業療法士協会に入会した方を対象としています。

2025年度に入会をされる方は対象外です。

開催日時：2025年12月7日（日） 9：00～16：10（8：30～入室開始）予定

開催方法：Zoom使用でのオンライン研修

参加費：会員4,000円、非会員8,000円

申し込み：2025年10月1日より申込み開始

QRコードより読み込み、もしくは都士会ホームページ参照

※詳しくは、東京都作業療法士ホームページ「研修案内」をご参照ください。



東京都作業療法学会に参加して

東京都作業療法士会 事業部 西原 将太

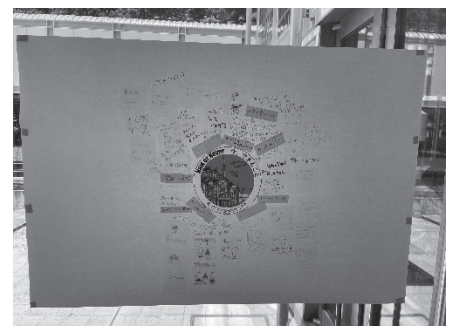
今学会では事業部は第8会場（食堂）にブースを設置して、「作業療法とは」というテーマで各々が思う「作業療法」をポスターに自由記載してもらい、一つの作品になるようにしました。

また、フォトフレームを準備して、フォトスポットとして学会参加の思い出の一枚を撮影できる場を提供しました。

我々の宣伝不足もあり、寄書きの数としては少し寂しくはありましたが、違う世代、立場の違い、受けてきた教育も異なる中、ダイバーシティを感じられる一つの作品が完成しました。さらにキッズたちの力も借りてより深みが増しました。笑

さすがダイバーシティ作品らしく、記載している内容はいろんな角度からみた作業療法でした。全ての寄書きをみて、感じたことは、みなさんが「病気ではなく、その人自身（人生）」を対象とすることに感心させられました。ついつい目先の症状にばかりに目が向いてしまい、患者自体をみるができなかった新人の頃を振り返り、考えさせられました。

今回のブース設置をきっかけに、間違いなく、新たな作業療法士への期待が増し、おじさんOTとしても新たな挑戦をしないとけないと思いました。



子ども委員会活動報告

港区立障害保健福祉センター 小出 由貴子

子ども委員会では、第21回東京都作業療法学会で、「あそび」について考えようをテーマにした企画を行いました。「あそび」は欠かすことのできない大切な作業と捉え、グループにわかれ、幼児期・学童期・成人期のライフステージにわけ、それぞれ、その時期に行った「あそび」をあげディスカッションしました。グループには作業療法士だけでなく一般の方も参加してくださり、活発なディスカッションが行われました。「あそび」を考えているときの参加者の表情が良く、楽しそうな様子でした。「あそび」において、ひとは、豊かになれると感じました。幼児期に行っていた「あそび」や経験が、成長するごとに形をかえ、意味をかえ、その役割を変えていくことにも気づくことができました。もっと臨床の場で世代にかかわらず「あそび」を扱う作業療法士が増えてほしいと思いました。ご参加の皆様ありがとうございました



東京都作業療法学会での公募企画の振り返り

地域づくり共創部 部員 川端 敦史

今回の東京都作業療法学会では、地域づくり共創部による公募企画として「ICTと社会参加」をテーマに企画を実施しました。

私（川端）からは、地域におけるICTを活用した実践から見てきた、高齢者の主体的な生活を送るためのICTの活用方法、そしてその可能性についてご紹介しました。また、東京都立大学の宮寺先生には、スマートフォンやLINEを用いた支援の実際について、医療現場での取り組みも含め、具体的かつ実践的なお話をいただきました。

当日は、多くの方々にご参加いただき、会場では活発な質疑応答や意見交換が行われました。ICTというテーマに対する関心の高さを実感するとともに、ICTが当事者の「その人らしい生活」を支える新たな手段になり得ることを、あらためて実感する機会となりました。

今回の企画が、ICTをきっかけとした新たな作業療法の展開や、地域における支援の広がりへつながる第一歩となっていれば幸いです。今後も地域づくり共創部では、現場の実践をつなぐ企画を継続してまいりたいと考えています。今後の研修や企画もどうぞご期待ください。



認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告

認知症の人と家族の生活支援委員会 渡辺 陵介

7月13日に開催された第21回東京都作業療法学会にて、当委員会は「認知症カフェを体験してみよう」というテーマで企画セミナーを実施しました。若年性アルツハイマー型認知症当事者の藤島岳彦さんをお招きし、講演やディスカッションを行いました。藤島さんは、認知症と診断されたときの気持ちや認知症になっても新しいことができると信じてチャレンジしていることをお話してくれました。また、生活上の様々な工夫を教えてくださいました。藤島さんは非常にパワーがあり、我々も含め会場全体が「明日からも頑張ろう」と思えた会になったと思います。当事者からお話を聞く機会は意外と少なく、貴重な経験になります。認知症カフェは、当事者もそうでない方も専門職もあり、幅広い年代の方と交流しながら、認知症の正しい知識を得て、地域との繋がりを持つ場になっています。今回の企画セミナーをきっかけにみなさんご自身の住まわっている地域の認知症カフェへ足を運んで頂けることを願っています。

今後の研修としては、アップデート研修を検討しています。認知症に関する知識をアップデートするもので、最新の知識を得られるような内容となっています。その他にも研修および企画を考えていますので、ぜひ多くの方に参加してもらえたらと思います。



認知症にやさしい本の紹介 VOL.52

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア』

著/秋山 正子

地域包括ケアシステムが目指す在宅医療のあり方を、丹念な取材と緻密な分析で描き出した一冊である。本書は、医療従事者だけでなく、介護関係者、そして市民にとっても、地域包括ケアの理念と現実を理解するための重要な羅針盤となるだろう。

著者は、在宅医療の現場で奮闘する人々の声に耳を傾け、多職種連携の難しさや、地域資源の格差といった課題を浮き彫りにしている。特に印象的なのは、患者や家族の「暮らし」を支えるという視点が一貫している点である。医学の進歩だけでは解決できない、個々の人生に寄り添うことの重要性を強く訴えかけている。

本書は、単なる成功事例集ではない。地域包括ケアの理想と現実のギャップを率直に示し、その上で、これから何を目指すべきかを読者に訴えかける。この問題提起こそが、本書の最大の価値と言えるだろう。地域包括ケアの制度が開始されたばかりの頃の著書であるが故、当時としてはまだ多くの試行錯誤が必要とされていると問いかけている。本書は、その試行錯誤の一步を踏み出すための、確かな足がかりを提供している。

私たちは、誰もがいつか、住み慣れた場所で最期を迎えたいと願う。本書は、その当たり前の願いをかなえるために、今、何をすべきかを教えてくれる。在宅医療の未来を考える上で、必読の一冊である。その緻密な構成と、現場への深い理解は、読者の胸に深く響くであろう。この理念が、絵に描いた餅で終わらないよう、具体的な実践へと繋がることを引き続き見守りたい。

東京都と東京都JRATとの災害リハ支援協定の締結

保険部担当理事（災害対策担当） 松岡 耕史

2025年7月23日、東京都作業療法士会が構成団体になっている東京都JRAT（災害リハビリテーション支援関連団体協議会）が東京都と「災害時におけるリハビリテーション支援活動に関する協定」を締結致しました。

都庁総合ホームページ：<https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/07/2025072311>



〈協定内容〉

災害時に被災者・要配慮者等への医療支援活動を行うリハ支援チームを派遣する場合の協力や平時の訓練等について、必要な事項を定めています。

リハ支援チームの一員として作業療法士が避難所等へ派遣されることになり、被災者の生活不活発や災害関連死等を防ぎ、自立した生活を再開するための支援が可能となります。

〈災害派遣登録バンクへの登録〉

東京都作業療法士会では、避難所へ派遣する人材の確保と育成を目的に災害派遣登録バンクを設置しています。

災害派遣登録バンクの詳細と登録方法はQRコードからご確認ください。



登録バンク詳細



登録はこちらへ



第21回東京都作業療学会公募企画（災害対策）のご報告

保険部担当理事（災害対策担当） 松岡 耕史

テーマ：災害時に我々はリハ職として何ができるかを考える

7/13に行われた都学会の公募企画では、「私達作業療法士が災害時にどのようなことを行えるのか」について参加者と共に考える取り組みを行った。

〈災害リハ支援の活動報告とグループワーク〉

熊本地震や能登半島地震における実際の避難所支援の活動報告と、避難所を想定した支援を考えるグループワークを通して、体育館等の避難所の生活区域における環境調整や、生活不活発の予防のために作業療法士が行えることについて参加者と具体的にイメージを共有することができた。



〈防災備品の体験ワークショップ（段ボールベッドと災害用簡易トイレ）〉

段ボールベッドや災害用簡易トイレを実際に触り、どのようなものか体験する機会になった。参加者からは、「防災備品を知っておくことで災害時における提案内容の幅が広がるため、普段の臨床の延長として災害時に使用できるものがあるかアンテナを張っておくことも大切」といったご意見もいただいた。

都士会では他にも災害対策に関する取り組みを行っているため、興味がある方はご連絡ください。

tokyootsaigaitaisaku@gmail.com（都士会災害対策担当：松岡）

シンポジウム「自動車運転再開に向けた多機関連携」のご報告

自動車運転と移動支援対策委員会 委員長 大熊 諒

第21回東京都作業療学会において、自動車運転と移動支援対策委員会主催のシンポジウム「自動車運転再開に向けた多機関連携」を開催いたしました。本シンポジウムでは、急性期から生活期に至る各段階における作業療法士の役割と、運転支援における多職種・多機関連携の実践事例が紹介されました。

多摩丘陵病院の大貫氏からは、急性期での早期介入の重要性や、自動車運転という作業が持つ意味合いについて具体的な事例を交えてご講演いただきました。東京都リハビリテーション病院の大場氏からは、作業療法士間の連携の現状と、今後のネットワーク構築に向けた展望が語られました。また、コヤマドライビングスクールの森氏からは、医療と教習所間の情報共有の実際や、利用者の心理的負担軽減につながる連携の在り方についてご報告をいただいています。

本シンポジウムを通じて、「評価」「訓練」「連携」の各フェーズにおいて作業療法士が果たす役割の大きさを、あらためて実感する機会となりました。今後は、地域の急性期・回復期・生活期の医療機関や教習所との連携をより一層深め、共通の評価基準や支援体制の整備を進めていくことが求められます。

当委員会では、こうした連携強化に資する研修会を今後も企画してまいります。ぜひ多くの皆さまにご参加いただき、連携の輪を広げていただければ幸いです。ご不明点やご意見がございましたら、以下のアドレスまでお気軽にお問い合わせください。

■ 連絡先：自動車運転と移動支援対策委員会 大熊 諒 E-mail : okuma.r@jikei.ac.jp

就労選択支援について

先日の東京都作業療学会の就労支援委員会企画「“就労選択支援”を学ぼう！～就労支援における作業療法士の更なる活躍を目指して～」にご参加いただいた皆様、ありがとうございます。

さて、当日の企画にご参加されていない方にもこの新しい制度について知っていただきたく、簡単にではありますがご紹介させていただきます。

「就労選択支援」とは、今年の**10月1日**から施行される新しい障害福祉サービスです。障害のある方がご自身の特性や希望に基づき、最適な就労サービスを選択できるようサポートします。

従来の就労支援では、利用者の選択肢が限定的であったり、十分に利用者へ情報提供がなされないまま事業所が決定されるケースがありました。就労選択支援はこうした課題を解決し、利用者が納得して就労支援サービスを利用できるよう、専門的なアセスメントと情報提供を行います。

作業療法士は、就労選択支援サービスに対し、利用者の身体機能、精神機能、日常生活動作、作業遂行能力といった専門的な視点からアセスメントに貢献が求められています。作業療法士の得意とする利用者の強みや課題を明確にし、具体的な支援ニーズを把握することで、より質の高い就労選択に繋げることが可能だと考えられます。皆様の専門性を活かし、この新しい制度を最大限に活用していきましょう。

より詳しく知りたい方はこちらのQRコードを読み取ってください。就労選択支援の情報が一元化されています。(厚生労働省；就労選択支援について)



※オンライン就労支援相談会 申し込み受付中！

今年度は下記日程で開催予定です。就労支援について興味がある方は、是非ご参加ください。

2025年12月12日（金）19：00～20：30

東京都作業療法士会福祉用具部主催 福祉用具部研修会のご案内

今回は、メーカーさんとコラボして上肢装具に関する研修会を企画しました。概要としては、生活行為をサポートする装具であるポータブルスプリングバランスサー（PSB）とMOMOの特性を理解し、補装具導入や適合、訓練器具としての活用につなげるものにいたします。

上肢装具研修会「PSBとMOMOを知ろう！使おう！」

☆対象：日本作業療法士会会員かつ、東京都作業療法士会の会員、または他県士会の会員、その他

☆参加費：1,000円（東京都作業療法士会会員、他県士会員） それ以外3,000円

☆開催日時：2025年10月19日（日） 10：00～15：30予定（受付9：45～）

☆OT協会基礎ポイント：2ポイント付与

☆場所：東京都立大学 荒川キャンパス 校舎棟182・183教室

☆定員：30名（先着順）

☆内容：1）田中勇次郎氏（東京都作業療法士会会長 福祉用具専門作業療法士）、松岡耕史氏（多摩丘陵病院 脳血管障害専門作業療法士）による講義

2）メーカーによる説明：製品や導入事例の紹介、実機体験

3）グループワーク：PSBとMOMOの使用や調整を体験し、それぞれの違いや活用場面などを検討する。

☆申し込み：イベントペイ 下記URLまたはQRコードから

<https://tinyurl.com/2bu7y23h>

☆申込締切：2025年10月10日（金）

☆問い合わせ先：tokyo.ot.yougu@gmail.com



「第9回こどものための福祉機器展」参加報告

山下 久美子

2025年7月5・6日、東京たま未来メッセにて「第9回こどものための福祉機器展」が開催され、今年4月に開催された「キッズフェスタ」に続いて、子ども委員会、福祉用具部、スポーツ支援委員会、事業部の4部署合同にて、東京都作業療法士会のブースを出展しました。ブースでは、作業療法士の視点を活かした体験型のコーナーを設けた他、「生活行為工夫情報事業」の事例も合わせて展示し、作業療法をアピールしました。

体験型コーナーでは、感触の違いを楽しめる素材や、視覚・聴覚を刺激する工夫を凝らした遊び、巧緻性に問題があっても簡単に操作できるスイッチを使ったゲームなどを通じて、参加したお子さんたちがやってみよう！という興味を持ってもらえるように設計しました。実際に体験した子どもたちの笑顔や、保護者の方々の熱心なまなざしがとても印象的でした。

また、多くの学校や病院などで支援に携わる専門職の方々も、ブースに立ち寄っていただき、「生活行為工夫情報事業」の事例集について具体的なお質問をいただく場面もありました。作業療法士の役割や支援の工夫について直接お伝えできる貴重な機会となりました。



ブロック活動報告

区東部・東北部ブロック

坂 直樹

7月13日に第21回東京都作業療法士学会が盛会のうちに終了いたしました。ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

さて、ひと息つき、今年度の区東部・東北部ブロック研修を企画中です。オンライン研修が充実する中、あえて「ブロックならではの」意義を見直し、内容を検討中です。その一つとして対面での福祉用具研修を予定しています。用具選定の不安や今さら聞きにくい疑問など、体験型の研修で一緒に考えてみませんか？研修内容のご提案や委員募集も随時行っていますので、ぜひご連絡ください。

連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com



委員参加申し込み



企画研修案募集

区西部・西南部ブロック

株式会社リニエR 扇 浩幸

今年は酷暑でしたね。原稿を書いた日がちょうど国内最高気温を更新した日ということで、暑さに参っている人も多いのではないのでしょうか？私たち西部西南部ブロックでは、OTの交流を目的に9月5日に恵比寿でブロック内のOT交流会を企画しました。ニュースが届く頃には終わってしまっていると思いますが、また様子等もこちらのニュースで共有しようと思っています。

西部西南部ブロックは少数精鋭ですが、素敵な人たちが集まっています。横のつながりをつくりたい方、他の分野の情報を収集して、自分のキャリアを再考したい方、ぜひブロックのアドレスへお問い合わせください。

連絡先：seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

安達 明完

皆様はじめまして。日本大学医学部附属板橋病院に勤務しております、安達明完と申します。2025年9月から区西北部ブロックのブロック長を務めさせていただくこととなりました。昨年は東京都作業療法士学会の開催など、精力的にブロックの活動しております。今年度は8月に研修会を行い、たくさんの方にご参加いただきました。来年度も皆様に興味を持っていただけるような研修会を企画しますので、是非ご参加のほど宜しくお願い申し上げます。

また、区西北部ブロックでは、一緒に活動していただけるスタッフを募集しております。ブロック活動に少しでも興味のある方は、下記のメールまで気軽にご連絡ください。是非、一緒に盛り上げていきましょう！

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック**阿部 幸太**

連日の猛暑で体調が崩れやすい時期ですが、いかがお過ごしでしょうか？当ブロックでは、今年度の企画を着々と準備中です。9月13日には「OT交流会」を開催します。作業療法、仕事、キャリアなどアットホームな雰囲気に参加者の皆様とお話できればと考えております。

また、当ブロックと一緒にブロック活動を盛り上げてくださる方を募集しております。ブロック活動に興味のある方はメールをください。是非、一緒に活動しましょう！

連絡先→ ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック**有賀 正亮**

北多摩ブロックでは、様々な領域で活躍しているOTがつどい、気兼ねなく語り合うことができるツドイノバを開催しています。ツドイノバは新人さんからベテラン、学生さんまで様々な参加があり、それぞれの都合に合わせた参加が可能です。今後も定期的に開催していきますので、皆様気楽に参加していただければと思います。

9月28日には当ブロック主催の対面形式での研修会を予定しています。「作業療法士のための明日から使える園芸活用法」というテーマのもと、園芸療法士としても活躍されている河原崎崇雄先生に講義（園芸療法とは、バイオフィリア理論等）、デモンストレーション（花の寄せ植え、押し花）、実技（カブ、ミニ大根のペットボトル栽培等）を行っていただきます。園芸を行っているがうまく咲かない、実らない、何をどう育てると良いのか、治療にどう活かせるのかなど日々の疑問が解決できるかもしれません！詳細は都士会ホームページ、インスタグラム等で発信していますので是非ご覧ください。@kitatama_ot

また北多摩ブロックでは私たちと一緒にブロック活動を盛り上げてくれる方を随時募集しています！
ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック**根岸 かなえ**

当ブロックでは、6月16日にzoomにて「OT交流会」を実施いたしました。第1回となる今回は、自己紹介や今後の交流会について意見を交わしました。今後も交流会を企画予定で、OT間の情報共有や意見交換を行っていただければと考えています。話しやすい雰囲気の交流会ですので、どなたでもぜひお気軽に参加ください！

また、現在は11月に開催予定のMTDLP事例検討会の準備を進めているところです。事例発表者向けのサポート会も行う予定です。こちらも皆様のご参加をお待ちしております！

そして、引き続きブロックの活動メンバーを大募集中です！西多摩・南多摩ブロックは色々な領域で働くフランクなメンバーが集まっています。活動にご興味ある方はお問い合わせいただけたら嬉しいです！

⇒swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

スポーツ支援委員会活動紹介

スポーツ支援委員会 委員長 佐藤 俊之

東京都作業療法士会スポーツ支援委員会委員長の佐藤俊之と申します。普段は世田谷区三軒茶屋にあります東京リワークセンターで、うつ病や適応障害等で休職された方の復職支援と転職支援を行っております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、当委員会ですが、作業療法の専門性を活かし、行政や地域、企業との連携を通じた都民の健康づくりに取り組んでいます。20名以上の委員が活動しており、それぞれの専門領域と実践経験をもとに、多様なスポーツ支援を探求しています。活動の一部を紹介します。

昨年に引き続き、東京都の「デジタル技術を活用した障害者のスポーツ参加促進事業」に参画し、10施設へ委員を派遣します。また、東京都障害者総合スポーツセンター主催の「はじめようeスポーツ体験」では補助員として委員を派遣し、テクノロジーと身体活動の融合を支援しています。

また「第21回東京都作業療法学会」では、当委員会が主催となり、日本代表選手を招いた「車いすバスケット体験企画」を実施しました。参加者はトップアスリートとの交流を通じて、スポーツの魅力と可能性を体感し、作業療法の新たな役割を実感する貴重な機会となりました。

こうした活動を通じて、作業療法とスポーツの接点はますます広がりを見せています。今後は委員の活動紹介を通じて、その可能性と実践を会員の皆さまにお届けし、関心のきっかけとなるよう努めていきたいと考えています。

編集後記



8月6日パラeスポーツフェスタ2025にOTボランティアとして来場者様のスイッチ適合のご案内係を務めました。様々なゲームとスイッチが用意され、申し込み参加の来場者様はOTが選定したものを使ってゲームを楽しみました。一般的なコントローラーが使用困難なお子様がゲームを楽しみ、それを見た親御さんが喜ばれ、とても有意義でした。しかし、その場だけの評価になってしまい日常で当たり前前にICTをご活用いただけるようになる為にはOTが関心を持つことが大切で、まだまだ足りてないので、もっと支援を伸ばしていきたいと思いました。また、7月13日の東京都作業療法学会では広報部でファッションショーを行う事ができました。こちらでもモデルになってくれたお子さんの素敵な笑顔を見る事が出来ました。この様子は1月に発行予定の広報誌OTOにてお伝え出来たらと思っております。お楽しみに！

ご参加いただいた皆様、ご協力くださった皆様に、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。
☆過去の都士会ニュース・広報誌OTOは都士会ホームページ『各種ダウンロード』のページよりどなたでもご覧いただけます！

広報部 部長 野村 哲朗

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL: 03-6380-4681 FAX: 03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。